テキスト

（筆者の子供が通う学校で、授業研究会が開かれました。筆者は研究会の受付や案内の手伝いをするため、学校を訪れました。）

子供と同時に学校へつくと、都内はもとより地方からも参観の先生方がちらほら見え、受付で配られた資料の入った大きな封筒を持って、案内図をたよりにお目当ての授業が行われる教室を探していられる。何しろ年に一度、※天下御免の研究会だ。見にこられる先生方はどんなことも見落とすまい、直接授業につながらないことも、すべて自分の学校の役に立つならばという意気込みである。ホスト役の先生方は研究内容はもとより、そのほか聞かれることは何であれ、答えに淀みはない構えで、①学校中がぴーんと張り詰めている。

その中で子供達は心得たもので、②よそゆきの顔をしながらふざけている。とはいえ、梅雨どきの蒸し暑さ、教室の中は※立錐の余地なく、後ろの席の子供は参観の先生からノートは見られるし、参考書は何を使っているかという質問にあってのぼせ上がってしまう。教室は入口の戸も窓も全部開け放たれ、丸見えの教室を廊下からのび上がって見る方もある。ひときわ高く子供達の「おはようございます」という声が響いた後は、担任の先生の声だけがいつもと変りなく流れて授業は始められた。

私に割り当てられたのは二階の階段を上がったところで、そこは高学年の教室。長い廊下から※鉤の手に折れた角の部屋からは国語の授業が聞こえていた。

「そう、この主人公はア子ちゃんですね、みんなと同じくらいかな。お父さんにねだって犬を飼ってもらう。でもその犬は野良犬でア子ちゃんになついてくれない。そんな或る日、お使いの帰りに、強そうなブルドッグと喧嘩になるんだね」

背中をぞっとするものが走り、胸がつまった。そのみすぼらしい犬はアカ、ア子ちゃんは※私の母、母の書いたものが教科書にのっていたのだ。全く不意打ちを食った思いだった。女の子の細い声が答え、代って男の子の明るい声に参観の先生方が思わず笑う。授業は上昇気流に乗った。これを書いたのはどういう気持からだろう。やっと飼ってもらった犬だのに思うようにならない。みんなだったらどうする。

小気味よいほど子供達の理解を進める質問と提案を先生はなさる。テキストは読まれ、咀嚼され、子供達の養いになっていく。

教育とはこういうものか。私は嬉しくて涙がこぼれた。図らずもこの場所に居あわせて、めったにない機会に人知れずめぐりあえたのだ。

窓の外の青桐の葉は柔らかく若い色を見せ、後ろのヒマラヤ杉は暗い。校庭に雨は垂直に落ちている。終業のチャイムがなって、学校中から、ほっと吐息があふれた。びっしり並んだ人垣の中から担任の先生が出てこられた。周りの好意ある視線のなか、まだ緊張の残る顔である。

③私は胸にあふれる万感を捧げて頭を下げた。

二十年前のことである。

（青木玉『なんでもない話』講談社　所収「テキスト」による）

※天下御免…するのを公然と許されること。はばからずに振舞えること。
立錐の余地なく…錐（きり）を立てるすきまもないほど人が密集し混雑しているさま。
鉤の手…直角に曲がっていること。　　私の母…随筆家、小説家の幸田文。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　――線①「学校中がぴーんと張り詰めている」とあるが、このときの学校の様子として適当なものを選びなさい。

ア　研究会に意気込んで臨む参観の先生たちに対し、学校の先生たちも真剣に対応しており、学校中が緊張した雰囲気である。

イ　参観に来た先生たちの厳しい質問に、対応する先生たちがしどろもどろになってしまい、混乱で騒然とした雰囲気である。

ウ　研究会を参観する人々で学校中が混雑する中、普段と違う校内の様子に先生たちも落ち着かず、浮ついた雰囲気である。

(2)　――線②「よそゆきの顔」とはここではどのような顔を表しているか。適当なものを選びなさい。

ア　参観の先生たちの熱気に包まれた教室で、おどけてみせる顔。

イ　参観の先生からノートを見られ、突然の質問に困惑する顔。

ウ　参観の先生や年に一度の研究会に、普段と違って改まった顔。

(3)　――線③「私は胸にあふれる万感を捧げて頭を下げた」とあるが、このときの筆者の様子として最も適当なものを選びなさい。

ア　自らの母が書いた文章が授業で扱われていることに気づき、めったにない機会だと驚いている。

イ　母の文章が子供達を育むものになっていることを喜び、授業を終えた教師に敬意を表している。

ウ　自らに割り当てられていた教室の授業が無事に終わり、終業のチャイムを聞いてほっとしている。